

## 読売新聞 きょう（9月29日）のイチ押し

### 一面など 日中 友好から緊張に

日本と中国は29日、1972年の国交正常化から50年を迎えました。この間、経済を基盤とした友好関係から、中国の軍拡に伴う緊張関係へと時代は変わりました。両国がめざす「建設的かつ安定的な関係」の実現は見通せません。

- ★ 岸田首相と中国の習近平国家主席は、節目にあわせて祝電を送り合う予定です。ただ、首相は都内で開かれる記念イベントへの出席は見送り、代わりに林外相が出席します。
- ★ 首相と習主席の対面面談はまだ実現していません。当面は11月のG20首脳会議などに合わせて首脳会談が開かれるかどうか焦点となりますが、中国側の出方は不透明です。

### 社会面 アルツハイマー新薬「有効」

製薬大手エーザイは、開発中のアルツハイマー病の治療薬「レカネマブ」について、最終段階の治験で「症状悪化を抑える有効性が確認できた」と発表しました。2023年中の承認を目指しています。

- ★ アルツハイマー病では、脳内に異常なたんぱく質「アミロイドβ」が蓄積します。レカネマブは脳内のアミロイドβを取り除いて神経細胞が壊れるのを防ぎます。
- ★ 治験は国内外の約1800人を対象に、1年半にわたって2週間に1回レカネマブを注射した集団と、偽薬を注射した集団に分けて行いました。その結果、「27%の進行抑制効果が確認された」としています。

#### 他紙と比べて

運動面の編集委員コラム「スポーツのかたち」では、パラリンピック東京大会の競泳で活躍した富田宇宙さんを紹介しています。富田さんの夢は名前の通り、宇宙飛行士でした。しかし、16歳で難病と診断され、やがて失明。夢はあきらめていましたが、ある対談をきっかけに再び夢を追い始めました。でも、宇宙へ行けるか否かはあまり重要ではないといいます。その心は――。